



# 米沢有為会 仙台支部だより

第 22 号

令和元年 12 月 16 日

猪者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 甲 國信

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

## 米沢有為会支部総会・懇親会

於：仙台ビジネスホテル  
スマイルホテル仙台国分町  
令和元年六月一日

## 寮母さんへ感謝状・お礼贈呈式

贈呈者：甲支部長



## 有為会の近況

### 百二十周年記念事業改修工事終了

昨夏の記録的な猛暑で、仙台興譲館で二名の寮生が体調を崩しました。この事態に、支部は記念事業の寮改修において寮室を二重窓へ改修し、カーテンも厚手のものに変えることにしました。工事は本格的暑さが到来する前の六月に終了し、その効果あったか、この夏、熱中症になった寮生はいませんでした。実際、晴れた日に内窓のガラスに触れてみると、外窓の温度に比べてかなり低く感じられます。温暖化の進行具合によっては、将来空調が必要になるかもしれませんが、その場合にも内窓は冷房の効率を高めるばかりでなく、冬の暖房の効率も高めることから無駄になることはないと考えています。この他に、屋上の防水工事、厨房始め各所のクリーニング、外回りの砂利敷き、照明のLEDへの交換等、寮生活を快適にする小工事を行いました。

### 仙台興譲館の近況

今春の入寮者はゼロの結果に終わりました。四月当初の寮生数は十一名(定員十五名)でしたが、その後寮生は二名減り、十二月現在の寮生数は九名になっています。

東京興譲館も今春入寮者がゼロでした。東京、仙台ともに入寮者がいないという事態は過去になく、事態を重視した本部理事会は高校へのアンケート調査を行い、対策を議論しました。募集が振るわない原因は様々で、短期的、長期的対策が必要と考えられますが、多くの受験生が早期の住居の決定を望み、合格前に住居を予約していることがわかりましたので、短期的対策として、来年度の入寮募集に予約募集(大学合格前に予約内定を行う)を導入することをきめました。

### 支部行事

令和元年度支部通常総会・講演会・懇親会 令和元年六月一日 会場 仙台ビジネスホテル(総会・講演会)、スマイルホテル仙台国分町(懇親会)

【総会】参加者十八名 平成三十年年度活動報告と決算、令和元年度事業計画(案)、予算(案)を承認しました。議事終了後支部長から仙台興譲館の小野寺寮母さんに、日々の食事の提供ばかりでなく、寮生の生活面にも心をくばって来られたこれまでの労をねぎらう感謝状とささやかなお礼が贈呈されました。なお、総会には大滝会長が臨席されました。

### 講演会

参加者二十五名  
講師 大滝則忠氏(米沢有為会会長)

前国立国会図書館長 講演題目「米沢有為会の縁」

講演内容は、会誌最新号の「支部だより」をご覧ください。



大滝則忠会長

天候はさらに悪化するとの前日の予報で、急遽中止となりました。十二日夜は、予報通り大雨に見舞われ、仙台興譲館の近隣一帯にも避難勧告が出されたことから、近くに住む長澤副館長が駆けつけ朝まで緊急の事態に備え待機しました。濁流は芋煮会を行う河川敷を呑み込みましたが、幸い堤防を越えることなく、寮生も全員無事でした。

(仙台支部長 甲 國信)

仙台支部年間行事予定

※仙台興譲館行事

■ 12月14日(土)

※忘年会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)

※1月12日(日) 第一回入寮面接

※1月14日(月) どんと祭

■ 1月18日(土)

※新年会兼卒業寮生歓送コンパ(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)

■ 2月 第3回理事會

※2~3月 温泉旅行又は食事會

※3月1日(日) 第二回入寮面接

※3月10日(火) 第三回入寮面接

※3月23日(月) 第四回入寮面接

※3月 末日 寮生總會

予約と通常

夏の交流会(八月五日) 中止  
今年のゴールデンウィークが長かった影響で、七夕前夜祭の八月五日もまだ夏休みに入らない大学があったため中止しました。  
芋煮会(十月十二日) 中止。  
十月十二日は台風十九号が接近するとの予報だったため、会場を仙台興譲館に変更して開催するつもりでしたが、

会員のコーナー

バルト三国とポーランドを

訪ねる (1)

鈴木 良平

2019・6・7-16

2019/6/7 10時、成田から約9,000km先NNW方向に向け、一路フィンランド、ヘルシンキに向かう。エコノミークラスで10時間の旅が始まる。この年での長旅は辛い。フィンランド飛行機内でのテレビは日本人向けのソフトが入ってなく、囲碁、将棋、麻雀、トランプ等のゲームはない。映画自飛行機の飛行ルートのモニターのみで、退屈のぎの選択肢が少ない。持参した本の読書か睡眠しかない。トイレ方向に何度も足を運びスペースを見つけては伸縮、屈伸、ラジオ体操などを動かさないと身体が硬直する。

10時間後ヘルシンキに着くとフェリーに乗り換え、バルト海を渡る。フェリーの乗客はおおよそ1,200から1,500人くらい、金曜日も手伝ってタリン市に渡る客であるとガイドがい。理由は北欧の物価が高く、さらに消費税が高額であり生活防衛のためといえ、毎週このような現象が繰り返さ

れているのだそうである。果たして物資の購入と労力と支出などが「ペイ」するのかである。

そうはいっても各国の税制体系が違うから何とも言えない。北欧の税率を大雑把に調べると次のとおりである。データは古いですが、日本の消費税率は8%に対して、北欧は付加価値税といって標準消費税が22~25%、食品は12~17%、租税負担率は日本が23.2%に対して北欧は43.1~54.5%、国民負担率は37.2%に対して55.9~76.5%となっていて、社会福祉面などは、かなり日本とは体制が異なっている。

北欧の国民は物価の安いエストニア、ラトビア方面に買い出しに南進するのである。フェリーに乗ること2時間エストニアの港に着くとバスでホテルに向かう。途中現地時間6時にもかかわらず、車窓は明るい。エストニア地方の街並み、田園風景を眺めていると山らしい山は見当たらない。ガイドに聞くとこれから先ポーランドまで平坦で丘らしいものはあるが、ポーランドには高速道路はあるが、リトアニアまでは一般道路である。エストニアのホテルまでは「白樺の木」と「ねむの木」並木が続く。「白樺の木」というと寒い山岳のイメージであるが、この辺は北緯58度であり、日本の稚内が同45度で

あるから高緯度である。町中を通過すると公共事業か一般の建設工事が盛んである。景気が良いようであるが、冬季期間が厳しいのか今が最盛期の感じがする。それは町のはずれを通過すると穀物は「麦」と「ジャガイモ」の畑だけであるからだ。タリン市のホテルにようやく到着である。成田を出てから13〜14時間、現地時間22時で夜といってもまだ明るい。白夜である。本日は移動の乗り物のため、疲れ休むことに。

6/8 ツアーバスでラトビアを目指す。今回のツアーは参加者27名、男姓8で寂しさを感じる。南は広島県、北は宮城県からの参加であった。昼夜の食事は毎回和気あいあいとなり、いろいろな経験談やら各郷土の自慢話などで過ごした。ラトビアに向かう前にタリン市(街が世界遺産を観光した。その他「歌の原」、「トーム・ヘア城」観光したが、ここで大失策に気付く。写真機のSDカードを入れることを忘れ、途中で購入する羽目になった。今までスマホで代用していたが、間に合わず市内のスーパー・マーケットを探し8GのSD一枚を購入す。

エストニア、ラトビア、リトアニアはEUの加盟国で国境を超えるには手続きは不要である。しかし検問所は各国とも残しているようである。バルト三

国は車窓からは景色・風景、建造物(バロック様式)、農業、街並みは酷似している。バロック様式の木造といい、コンクリートモルタルは17・18世紀に建設が奨められたともいわれている。町ではコンクリーではあるが、なかには後世のためか観光客のためかバロックの建築構造を過程・工程などを含めて本体を展示してある。仕上げはクレパス色の淡い色でしあげ、周辺にマッチした配色してある。



バルト三国では水とトイレは有料である

ラトビアのリガ市内も世界遺産になっている。観光も多数の時間を当てられ、クラシックな建物が多い。ヨーロッパの各国に行くと、国民のよりビシ

ろとして馴染みの多い教会がある。また各ツアーでも観光地のコースにはいつている。そんな中に大聖堂と言われる教会がある。区別が分からないのでガイドに聞くと大聖堂には司教が務めていて、他の教会は不在のこと。



カウナス市の繁華街はクレパス色の建築

次のリトニアにはリガ市からバスで、3時間30分で行く。やはり農業と林業の国であり、市街地は狭く徒歩での観光になった。首都はヴィリニウスであるが、国の真ん中のカウナス市の観光となった。旧市街地の東側の住宅地に杉原記念館がある。この地は旧日本の領事館であり、ナチス・ドイツのポーランド侵攻から逃れてきたユダヤ人

を救った杉原千畝領事の功績を讃え、彼の記念館として一般に公開している。



杉原千畝 執務時代のデスク

杉原千畝 略歴  
 1900年1月1日 岐阜県加茂郡八百津町に父好水、母やつの次男として生まれる。1919年早稲田大学高等師範部英語科中退、外務省留学生としてハルビンでロシア語学を学ぶ。1924年外務省に奉職。フィンランド、リトアニア、ドイツ、チェコ、東プロセイ、ルーマニアの日本領事館に勤務。1940年リトアニア共和国首都カウナスの日本領事館領事代理時代に、ナチス・ドイツの迫害を逃れようとする

ユダヤ人にピザを発給し、約6,000人の尊い命を救う。

1947年帰国。外務省を退職。東京PX、米国APONJ E商会、ニコライ学院教授、NHK国際局、国際交易株等に勤務。1985年1月イスラエル政府より「ヤド・バシエム賞」(諸国民に正義の人賞を受賞) 1986年7月31日 逝去(86歳)

(出典) 杉原千畝 生涯100年記念事業 ホームページ



杉原記念館 旧日本領事館前で

原稿募集

「仙台支部だより」は年2回発行しております。旅行記、随筆、趣味のことなどメールでお寄せ下さい。

編集者のメールアドレス: m\_takiguchi47209@mail.goo.ne.jp

カウナス市の中心地を流れるナムネス川があり、市民の憩いの場である。この川に沿って両岸敷キロにわたり、桜の苗木を植える計画があるとか。さすがW大学の母校愛は素晴らしい構想である。ワシントンの桜同様、将来日本の歴史を中欧に残すことであろう。カウナスでは夕食は各自で摂る計画になっていた。ツアーでもこのようなスケジュールはよくある。街のレストランに行く人もあれば、スーパーでの総菜コーナーで用を済ませる場合がある。私たちは後者を選択し、定員のおぼさんに食品を指差し、短い単語で単位を表現し少なければモア、モアを連発し様々買い求めた。ご飯が出ないため最後は寿司を選び(握りは不細工で食べられるものでない)海苔巻きを調達した。ビールはアサヒドライを500ml 112本購入し、ホテルで夕食とした。(次は、ポーランドへ続く) (仙台市泉区在住)

芋煮会の返事 (近況報告)

廣瀬 純

さて、欠席の折には近況をとのことでありましたので、少しばかりご報告申しあげます。

小生、目下は今週末に迫った仙台市内でのミュージカル公演の準備に追われているところです。第一部では泉鏡花の『化鳥』を原作とする舞踊劇も上演予定です。今回はプロデュースのほか、ちよい役で出演もいたします。また、先月は、半月ほどロンドンに滞在しておりました。友人が主宰するシェイクスピアカンパニーという劇団のサポートでしたが、滞在中、ご縁があったケンブリッジ大学に関係する方々の親睦団体「ケンブリッジ日本人会」の会合に招かれケンブリッジにも足を運びました。その折に、事前にご依頼を受けておりましたのでその場で自作の歌を披露して、宮城県と共同でつくったミュージカル『常長の祈り』で使用した曲も歌いました。併せて伊達政宗や家臣の支倉常長のお話や米沢の話も少しさせていただきました。会の終わりには、拙いながら私のギター伴奏で「ふるさと」を会場の皆さまと合唱いたしました。曲中「志を果たしてい

つの日にか帰らん」という一節では少し目を潤ませるような方々も。「ふるさと」というものは海外で研究されたり生活されたりしている方々にとつて、ことのほかこころに響くことばや記憶であるのだなとあらためて感じたところでした。

令和元年9月25日

(仙台市青葉区 純クリエイション)

新入会員紹介

(氏名、会員種別、住所、出身市町、職業等)

斎藤佑介さん 賛助会員 愛知県

蒲郡市 米沢市

再生医療関係企業勤務 舎生OB

横山 昇さん 賛助会員 仙台市

太白区 長井市 宮城県議会議員

沼澤幸雄さん 賛助会員 横浜市

戸塚区 長井市 元特許庁

舎生OB

黒澤和彦さん 賛助会員 岩沼市

米沢市 大成ロテック(株)

編集後記: 皆様よいお歳をお迎えください。編集責任者 滝口政彦